

神舞に込めた祈りと共有した思い

山々が紅く色づき、1年の収穫を喜ぶ秋。
穏やかに流れる日々に感謝し、地域の安泰を願います。
これまで受け継がれてきた神舞には、いつの時代でも変わらない
人々の祈りが込められています

特集

込められた「感謝」と「願い」
神舞
池田旗山の神舞

平穏な日常に感謝し、地域の安泰願う

木々が葉を落としはじめ、一段と秋色に染まる境内には、遠足で訪れた子どもたちのはしゃぎ声が響きます。鳥居を抜け、階段を上がると、稲わらを叩く音と賑やかな会話が聞こえてきました。年神様を迎えるため、しめ縄を作ると集まった旗山神社の総代たち。今回はひと回り大きなしめ縄を作ると意気込んでいました。道行く人たちは鳥居の前で立ち止まり深く一礼してから通ります。帰りも一礼すると地元の方が教えてくれました。

取材中、先日の子神舞を一番乗りで見に行つたと話す二人に出会いました。数年ぶりの神舞に向け、社殿で練習に励む保存会も見に行つたそう。さらに、全校朝会での披露も見に行つたほどの神舞好きですが、この時は間に合わず見る事ができなかったと笑います。発表会に一番乗りした理由がここで分かりました。

「昔から神舞が好きで境内で舞う姿は鮮明に覚えています。観客から囁きたてられると、さらに豪快に舞い出すので盛り上がり上がっていましたよ」と口をそろえます。その頃も子どもたちの神舞はありません。聞きなれない口上や独特な動作に悪戦苦闘しながらも練習を重ね、大人顔負けの神舞を披露した子どもたちの姿に

「涙が込み上げてきた」と、二人は目を細めて答えてくれました。

共有した時間が地域を次代へつなぐ

今年から始まった地域の伝統継承活動。宮司の前迫芳文さんは「大きな一歩。取り組みに感謝の思いを伝えたい」と手ごたえを感じています。舵取りを担った石踊晴元校長は「歴史を知ることが地元を誇りに思うことにつながります。地域で子どもたちを育てる環境を構築できれば」と前を向き期待を込めました。

日々の生活と文化の継承。「神舞」を受け継ぐ人々はその舞にどのような思いを重ねてきたのでしょうか。急速に進む過疎化。継承者がいなくなれば、その文化も失われてしまいます。そのなかでも受け継がれてきた神舞を未来にどう繋いでいくべきなのでしょう。積み重ねた時間はやがて歴史となり、継承するべき価値あるものになります。しかし、継承そのものより、次代に繋ぐと願い、思いを共有した時間にこそ本当の価値があるのかもしれません。

人々が場を共有し、長い時間のなかでしなやかに変化を遂げ続ける神舞という伝統文化のあり方は、私たちに多くのことを語り掛けています。